



📌 グリークラブの普段の練習は放課後の教室で行われます。

📌 練習を取り仕切っているのは学生指揮者の坂本さんです。



📌 もとは初心者ばかりというのが信じられないほど、美しいハーモニーを聞かせてくれました。

## 📌 プロの指揮者やボイストレーナーの本格的な指導を受けつつ、さまざまなジャンルに積極的に挑戦

他の大学の合唱部では、定期コンサートを毎年の恒例行事として行っているものですが、武蔵工大グリークラブの場合、部員数の減少などもあり、ここ数年は休止中。とはいえ、年間の活動内容は非常に充実しており、合唱の舞台も多く用意されています。「自分たちで企画するコンサートはないものの、“本番”はいっぱいあるんです。新入生歓迎会で歌を披露したり、品川区や世田谷区が主催する合唱祭に参加したり、横浜キャンパスで行われるチャリティーコンサートに出演したり……とくに今年は武蔵工大の創立75周年式典で校歌を合唱する役目をいただき、例年にもまして忙しかったです」(青柳くん)

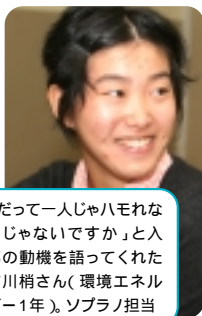
練習内容もなかなかハード。月、水、金に3時間ずつ、“学生指揮者”である坂本さんを中心にみっちり練習を行い、ときにはあまりにも熱心になりすぎて校舎施設時間の20時を超えてしまい、警備員さんに怒られてしまうことも。「それだけやってるから全員が確実に上達する。ボクもそうでしたが、楽譜が読めないくらいの音楽初心者であっても、必ず歌がうまくなります!」(佐藤俊介くん)。また学外の指揮者やボイストレーナーの方に定期的に指導を受ける機会を設けているのも武蔵工大グリークラブの大きな特徴です。「指揮者やボイストレーナーの先生は我が部とはずいぶん長い付き合いで、よく面倒を見てくださり助かっています。」(坂本さん)

彼らが歌うジャンルはと言えば、これが非常に多岐に渡っています。クラシックから黒人霊歌、イタリア歌曲、日本の童謡や愛唱歌、Jポップ

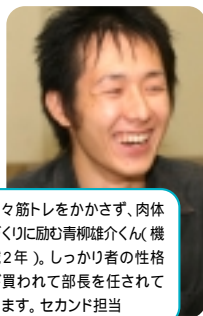
までと、さまざまな分野に挑戦。むろん日本語や英語の歌詞ばかりでなく、イタリア語、ドイツ語、さらには古典英語まで手がけることがあるそうです。「たくさんの人に合唱の楽しさを知ってもらうためにも、今後はヒット中の曲やメジャーな曲をもっと積極的に取り入れるべきかも。みんなが知ってる曲も、アカペラのハーモニーだと、また違う素晴らしさが出てきますから」(中島新くん)

最期に今後の抱負を部長の青柳さんに語っていただきました。「大所帯だったときのように、大きなホールを使って行うことはできないでしょうが、キャバの小さいところを借りてもっとみんなに気軽に楽しんでもらえるコンサートを開いてもいいね、なんて話しているところです。あとは、とにかくたくさんの人たちに入部していただき、合唱の楽しさを一緒に味わってもらいたい。」「歌は好きだけど、下手だから人前で歌うことは恥ずかしい”なんていう人は多いものですよ。これはボクたちの経験上はつきり言えますが、歌っていれば誰もが絶対うまくなります。音痴な人は、ただ今まで歌ってこなかっただけなんです」

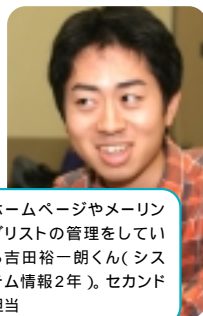
練習がハードなあまり、アルバイトがあまりできないという共通の悩みを持っている武蔵工大グリークラブの面々ですが、そのキャンパスライフはとても充実していることがうかがえた今回の取材。これからもその美しいハーモニーで武蔵工大の各種イベントを盛り上げてください。



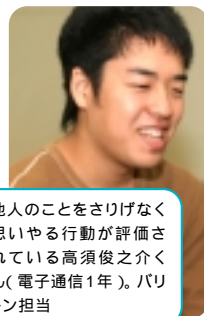
「だって一人じゃハモれないじゃないですか」と入部の動機を語ってくれた吉川梢さん(環境エネルギー1年)。ソプラノ担当



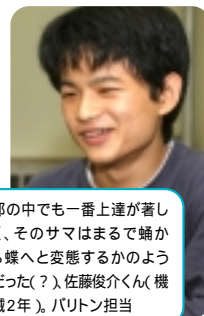
日々筋トレをかかさず、肉体的に励む青柳雄介くん(機械2年)。しっかり者の性格が買われて部長を任されています。セカンド担当



ホームページやメールリストの管理をしている吉田裕一朗くん(システム情報2年)。セカンド担当



他人のことをさりげなく思いやる行動が評価されている高須俊之介くん(電子通信1年)。バリトン担当



部の中でも一番上達著しく、そのサマはまるで蝶から蝶へと変態するかのようだった(?)佐藤俊介くん(機械2年)。バリトン担当